

# 愛知医科大学 学報



高橋周治くん (医学部3学年次)  
第100回日本陸上競技選手権大会 (男子100m)  
7位入賞  
(関連記事16頁)

＝ 第143号 ＝  
2016. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス  
[www.aichi-med-u.ac.jp](http://www.aichi-med-u.ac.jp)

## ■ 主な目次 ■

平成29年度学生募集概要	2
オープンキャンパスを実施	5
平成27年度愛知医科大学決算	6
役員・評議員の異動	8
大学運営審議会の設置	10
教授就任インタビュー	14
南イリノイ大学医学部短期留学体験記	18
特定共同指導実施	24
平成28年度科学研究費助成事業交付決定	32

# 平成29年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程					
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学（公募制）	約25名※1	11/1～11/11 [消印有効]	11/19	本 学	11/24
愛知県地域特別枠入学A方式	約5名※2				
国際バカロレア入学	若干名				
一般入学	約65名	12/12～1/11 [消印有効]	第1次試験 1/24	本学、東京 大阪、福岡	1/30
			第2次試験 2/2・3 (いずれか希望する日)	本 学	2/9
大学入試センター試験利用入学	約15名	12/12～1/13 [消印有効]	第1次試験 1/14・15 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/9
			第2次試験 2/16	本 学	2/23
愛知県地域特別枠入学B方式	約5名	2/17～2/27 [消印有効]	第1次試験 1/14・15 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/6
			第2次試験 3/10 ※1国際バカロレア入学若干名	本 学	3/16
◆入試科目・配点・時間					
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学（公募制） 愛知県地域特別枠入学A方式	小論文			5段階評価	60分
	基礎学力試験 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』		100点	60分
	基礎学力試験 (外国語)	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		100点	60分
	面接（個人面接）※1				5段階評価
国際バカロレア入学	書類選考・適性検査・面接（個人面接）※1				
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』、『化学基礎・化学』、 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	120分
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』※2	150点	80分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分
		面接（個人面接）※1		5段階評価	—
	大学入試 センター試験 利用入学	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点
数 学			『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)	
理 科			『物理』、『化学』、『生物』の3科目のうち 2科目を選択	200点 (各100点)	
外国語			『英語（筆記・リスニング）』	200点※3	
第2次試験		面接（個人面接）※1		5段階評価	—
愛知県地域特別枠入学B方式	試験内容は大学入試センター試験利用入学と同様				

※1 本学が必要と認めた者に対して、面接終了後に健康診断を行う。

※2 数学Bの出題範囲は「数列」及び「ベクトル」とする。

※3 250点を200点に変換。

# 平成29年度看護学部看護学科学学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/17～10/27 [消印有効]	11/5	本 学	11/15
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/26～1/17 [消印有効]	1/29		2/10
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	10名	12/26～1/20 [消印有効]	1/14・15 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/10
	B方式	5名				

◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目	配 点	時 間	
推薦入学	指定校制	面接			—	—
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』	100点	45分	
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1	100点	45分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』	100点	45分	
		面接			—	—
社会人等特別選抜		小論文			—	60分
		面接			—	—
一般入学		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2	100点	60分	
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』から1科目を選択	70点	45分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』	100点	60分	
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章のみ）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点		
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』	100点		
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章のみ）』	100点		
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択	100点		
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』 から1科目を選択	100点		
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択	100点		
	外国語	『英語（筆記・リスニング）』	100点			

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

# 平成29年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

## 1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

## 2 入試日程

### 【第1次募集】

出願期間：平成28年8月17日（水）から  
平成28年8月31日（水）まで（必着）  
試験日：平成28年10月7日（金）  
試験場：大学本館3階303講義室  
合格発表：平成28年10月28日（金）

### 【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施  
出願期間：平成29年1月4日（水）から  
平成29年1月13日（金）まで（必着）  
試験日：平成29年2月10日（金）  
試験場：大学本館3階303講義室  
合格発表：平成29年2月24日（金）

## 3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～12：00
面接試験 (志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)	13：00～

# 平成29年度大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

## 1 募集人員

15名

## 2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域
広域看護学分野	看護管理学領域
	母子看護学領域
	慢性看護学領域
	精神看護学領域
	老年看護学領域
	地域看護学領域
高度実践看護学分野	感染看護学領域（※1）
	クリティカルケア看護学領域（※2）

- ※1 高度実践看護師（専門看護師〔CNS〕）コース  
※2 高度実践看護師（診療看護師）コース

## 3 入試日程

### 【第1次募集】

出願期間：平成28年8月12日（金）から  
平成28年8月26日（金）まで  
(消印有効)  
試験日：平成28年9月7日（水）  
試験場：看護学部棟内講義室  
合格発表：平成28年9月14日（水）

### 【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施  
出願期間：平成29年1月10日（火）から  
平成29年1月23日（月）まで（消印有効）  
試験日：平成29年2月8日（水）  
試験場：看護学部棟内講義室  
合格発表：平成29年2月15日（水）

## 4 試験科目・時間

### 《修士論文コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(専攻領域)
13：15～	面接

### 《高度実践看護師（専門看護師〔CNS〕）コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(CNS関連分野)
13：15～	面接

### 《高度実践看護師（診療看護師）コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(関連領域の病態生理学)
13：15～	面接

# 平成28年度第1回オープンキャンパスを実施



大学の概要説明

平成28年度第1回目のオープンキャンパスを平成28年7月30日（土）に実施しました。

たちばなホールでの「大学概要説明，入試説明」に始まり，レストランオレンジでの「学食体験」に加え，医学部は「キャンパスツアー」，「入学試験合格体験談」，「留学体験談」及び「研究・学会発表体験談」等を行い，看護学部は「在学生からのメッセージ」，「実習体験」等を行いました。当日は，遠方からの参加もあり，医学部は175組359名，看護学部は276組441名の800名もの多数の方々に参加して頂きました。

在学生の案内による「キャンパスツアー」においては，ドクターヘリを見学しながらのフライトドクター及びフライトナースによる説明が大変好評で，会場が賑わいました。

また，シミュレーションセンターにおける実習体験と国際交流センターの活動紹介（パネル展示）では，オープンキャンパスに来なければ知ることができない様々な体験ができました。

そして，教職員による「入学試験個別相談コーナー」では，入学試験の内容などに関する相談が多くあり，「学生との相談コーナー」では，在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



ドクターヘリ見学



人体シミュレータを使った実習体験



脳の標本観察風景  
(加齢医学研究所)



学生との  
相談コーナー

## 国家試験日程のお知らせ

### ◆第111回医師国家試験

- ・試験日 平成29年2月11日（土），12日（日）及び13日（月）
- ・合格発表日 平成29年3月17日（金）

### ◆第106回看護師国家試験

- ・試験日 平成29年2月19日（日）
- ・合格発表日 平成29年3月27日（月）

### ◆第103回保健師国家試験

- ・試験日 平成29年2月17日（金）
- ・合格発表日 平成29年3月27日（月）

# 平成27年度愛知医科大学決算

平成28年5月30日（月）に開催された理事会及び評議員会において、平成27年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

## ■概要

平成27年度事業計画は、「財の独立なくして学の独立なし」のスローガンの下、事業財源の確保を最重要課題と位置付け、事業収入の根幹である病院収入の増収に努めるため、新病院の機能を最大限に発揮すべく、効率的で高収益体質の構造に繋がる事業を優先して予算化し執行した。

平成26年5月9日の新病院開院からちょうど1年半を経過した平成27年11月以降、単月の医療収入計上額は、過去最高額を更新し続け、最終的に年度としても過去最高となる317億円強の決算（予算達成率99.63%）を計上することができた。

一方、支出の中で大きなウエイトを占める人件費について、人的資源の確保を図りつつ、超過勤務の前年対比20%縮減目標等を掲げ、効率的な事業遂行に努めた成果として、人件費率は、43.77%（前年46.38%、2.61%改善）に抑えることができた。

ビッグプロジェクトである新病院建設関連事業に加え、大学南側取得用地造成工事事業、本館7階セミナー室設置及びそれに係る移転事業、更には、国際交流推進引当特定資産及び教育研究活性化引当特定資産の組入れ事業等に注意すべく、3度の補正予算を組み、迅速に執行するなど大学全体のアクティビティが充実してきた。

こうしたことから収支差は、補正後予算から大幅に改善、帰属収支差は、約▲32億33百万円となった。資産売却差額・資産処分差額及び新病院に係る特殊要素（寄付金、減価償却）を考慮した実質の収支差は、約6億17百万円となり、昨年度の赤字から一転、黒字決算を打つことができた。

## 事業活動収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

（単位：百万円）

		科目	金額	前年差
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,190	3
		手数料	207	△6
		寄付金	508	83
		経常費等補助金	1,689	△294
		付随事業収入	382	14
		医療収入	31,768	3,376
		雑収入	675	△117
		教育活動収入計	40,419	3,059
	事業活動支出の部	人件費	17,810	150
		教育研究経費	22,872	△792
管理経費		859	53	
徴収不能額等		18	13	
		教育活動支出計	41,558	△578
	教育活動収支差額	△1,139	3,637	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	21	△68
		教育活動外収入計	21	△68
	支出の部	借入金等利息	280	△17
		教育活動外支出計	280	△17
	教育活動外収支差額	△260	△52	
	経常収支差額	△1,399	3,584	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	△1
		その他の特別収入	254	△374
		特別収入計	254	△375
	支出の部	資産処分差額	2,085	1,699
		その他の特別支出	3	3
		特別支出計	2,088	1,701
	特別収支差額	△1,834	△2,076	
	基本金組入前当年度収支差額	△3,233	1,509	
	基本金組入額合計	△2,295	△2,181	
	当年度収支差額	△5,529	△673	
	前年度繰越収支差額	△34,505	△4,855	
	翌年度繰越収支差額	△40,034	△5,529	

（参考）

事業活動収入計	40,693	2,615
事業活動支出計	43,926	1,106

（注）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## 資金収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,190	3	人件費支出	17,776	329
手数料収入	207	△6	教育研究経費支出	18,410	△719
寄付金収入	593	△334	（うち医療経費支出）	(16,288)	(△768)
補助金収入	1,790	△276	管理経費支出	680	38
（国庫補助金収入）	(1,479)	(△284)	借入金等利息支出	280	△16
（地方公共団体補助金収入）	(311)	(8)	借入金等返済支出	1,244	△2,924
資産売却収入	278	△834	施設関係支出	932	△6,113
付随事業・収益事業収入	382	14	設備関係支出	927	△1,979
医療収入	31,768	3,376	資産運用支出	245	△2,635
受取利息・配当金収入	21	△68	その他の支出	4,316	502
雑収入	690	△106			
借入金等収入	140	△703			
前受金収入	1,101	95			
その他の収入	6,726	△7,300			
資金収入調整勘定	△7,529	△759	資金支出調整勘定	△3,273	2,440
前年度繰越支払資金	4,071	△4,359	翌年度繰越支払資金	3,889	△182
収入の部合計	45,426	△11,258	支出の部合計	45,426	△11,258

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	61,374	△5,341	固定負債	28,886	△5,561
有形固定資産	49,720	△4,912	長期借入金	19,066	△5,032
土地	8,383	387	学校債	1,600	△123
建物	32,680	△3,253	長期未払金	1,916	△439
構築物	1,028	△107	退職給与引当金	6,303	34
教育研究用機器備品	6,323	△1,447	流動負債	10,006	3,921
管理用機器備品	192	△7	短期借入金	5,032	4,188
図書	919	△307	1年以内償還予定学校債	253	△137
車両	7	△4	未払金	3,293	△223
建設仮勘定	188	△173	前受金	1,123	77
特定資産	10,708	△505	預り金	305	16
学校債償還引当特定資産	1,853	△260			
借入金返済引当特定資産	6,600	0	負債の部合計	38,892	△1,640
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1,850	△250			
教育研究奨励引当特定資産	300	△100			
国際交流推進引当特定資産	60	60			
教育研究活性化引当特定資産	45	45			
その他の固定資産	947	76			
借地権	20	0			
電話加入権	5	0			
施設利用券	204	204			
ソフトウェア	494	△135			
有価証券	11	0			
長期貸付金	212	8			
保証金	0	△0			
預託金	0	0			
流動資産	10,793	468			
現金預金	3,889	△182			
未収入金	6,439	811			
貯蔵品	211	△152			
短期貸付金	103	4			
立替金	4	△1			
前払金	147	△13			
資産の部合計	72,167	△4,873			
			純資産の部		
			科目	金額	前年差
			基本金	73,309	2,295
			第1号基本金	70,224	1,960
			第4号基本金	3,085	335
			繰越収支差額	△40,034	△5,529
			翌年度繰越収支差額	△40,034	△5,529
			純資産の部合計	33,275	△3,233
			負債及び純資産の部合計	72,167	△4,873

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## ■前年度との比較（主な増減）

### (1) 事業活動収支計算書

収入…事業活動収入は、407億円で、前年度と比較して26億円（6.7%）の増加となった。これは、医療収入の大幅な増加によるものである。特に、本院での伸びが著しく、新病院の持つ本来の機能が発揮されてきたところである。学納金等その他の収入は、概ね予算通りの計上となった。

支出…事業活動支出は、439億円で、前年度と比較して11億円（2.6%）の増加となった。要因として、AB棟及び高度救命救急センターの解体による資産処分差額を約17億円計上したため支出増となったが、新病院開院に伴う移設、電子カルテを始めとした一時的な経費がなくなり医療経費は、6億円の減額となった。また、人件費は、1.5億円増加となったが、予算内での執行となった。

### (2) 資金収支計算書

前年度、新病院建設工事等で70億円を計上した施設関係支出は、9億円を計上した。前年度に引き続き、将来に向けた用地取得のため土地支出を4億円計上した。また、同様に新病院建設に伴う整備等で29億円を計上した設備関係支出は、9億円を計上した。翌年度繰越支払資金は、39億円で、前年度と比較して2億円減少した。

### (3) 貸借対照表

資産総額は、722億円で、前年度と比較して49億円（6.3%）の減少となった。AB棟及び高度救命救急センターの解体による除却等の影響である。また、純資産（基本金+繰越収支差額）は、333億円で、前年度と比較して32億円（9.7%）の減少となった。これは、新病院建設事業等に伴う建設仮勘定の減少によるものである。

## ■最後に

私立医科大学のすべての基本は、まずは経営の安定であることは申すまでもありません。平成18年からキャンパス再整備にとりかかり、一昨年の平成26年5月に本丸である新病院が無事完成し、この新病院が新病院基本構想に掲げた目標値をクリアしてくるようになりました。教育、研究施設の整備と相まって、今後50年以上の愛知医科大学のスタート台が整ったと言えます。愛知医科大学がある長久手市は、日本の800以上の都市の中で一番住みやすい快適な街であると言われています。更に、最も市民の平均年齢が若く、出生率も上位という特異な街との評価で、日本の将来の一つのモデルとなりうるということです。愛知医科大学も最先端医療を提供して、日本でも屈指の医科大学となるよう、職員一同全身全霊を尽くしてまいります。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。  
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

## 役員・評議員の異動

### 【理事】

辞	任	衣斐 達（平成28年3月31日付）
辞	任	土井清孝（平成28年5月31日付）
就	任	白鳥さつき（任期：平成28年4月1日～平成31年1月27日）
就	任	祖父江元（任期：平成28年5月1日～平成31年1月27日）
就	任	櫻井 敏（任期：平成28年6月1日～平成31年1月27日）

### 【評議員】

辞	任	神谷美帆、土井清孝、山中智津子（平成28年5月31日付）
就	任	祖父江元（任期：平成28年5月1日～平成31年1月27日）
選	任	堺 宣博、久徳重和、森田 亘（任期：平成28年6月1日～平成31年1月27日）

### 【監事】

辞	任	横地高志（平成28年2月5日付）
就	任	岡田 忠（任期：平成28年3月22日～平成31年1月27日）

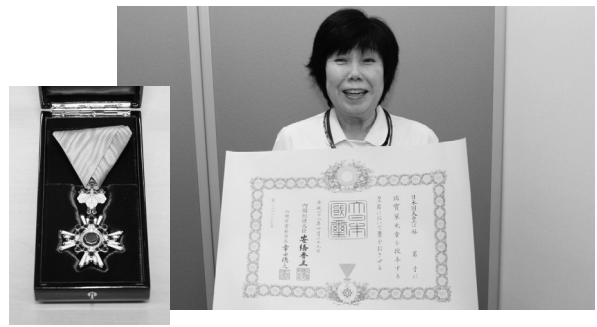


## 林累子元看護師長 春の叙勲の栄誉

本院看護部元看護師長の林累子さん【写真】が、平成28年春の叙勲において、瑞宝単光章を授与され、平成28年5月12日（木）国立劇場大劇場において伝達式が行われ、皇居において、拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

林元看護師長は、本院の黎明期である昭和49年4月から看護業務に従事され、看護師が不足する中で外来看護業務に取り組みました。平成5年4月に看護師長に昇任後は、病棟師長として業務改善やスタッフの育成に尽力されました。平成24年3月に定年退職を迎えられた後の現在も、再任用職員としてがん相談支援室を担当されており、患者さんの闘病支援に努められています。

授与された林さんから「このたび思いがけない叙勲の栄に浴しましたことは、ひとえに皆さま方のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。現在はがん相談支援室で勤務しています。叙勲の栄に浴しましたことが新聞に掲載されましたので、がん相談支援室にお越し頂いている患



者さんが自分のことのように喜んでくださいました。今後もこの栄誉に恥じないように、がん患者さんの闘病意欲や日常生活に良い影響を与えられるよう努力していきたいと思っています。ありがとうございました。」と感想がありました。

## 医学部父兄後援会・父兄互助会平成28年度定期総会開催

### 新会長に櫻井敏氏を選出



平成28年5月22日（日）午前10時から大学本館7階711特別講義室において、平成28年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成27年度父兄後援会・父兄互助会の事業報告及び決算報告、平成28年度役員改選に移り、会長の櫻井敏

氏【写真】を始め総勢19名の新役員が選出されました。櫻井新会長のあいさつの後、平成28年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は、三宅養三理事長、岡田尚志郎医学部長、細川好孝教務部長、中野隆学生部長、島田孝一法人本部長からそれぞれあいさつがありました。

なお、昼食を挟んで、午後1時20分から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

## 看護学部父母会平成28年度定期総会開催

### 新会長に森田亘氏を選出



平成28年5月14日（土）午前10時から看護学部棟N301講義室において、平成28年度愛知医科大学看護学部父母会定期総会が開催されました。

始めに、山中智津子会長のあいさつの後、議事に入り、平成27年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。続いて役員改選が行われ、新会長に森田亘氏（3学年次生父母）【写真】が、また、新役員として他に16名の方々が選出されました。その後は、

新役員によって議事が進行され、平成28年度の事業計画

案及び予算案が原案どおり承認されました。

議事終了後、白鳥さつき看護学部長及び茅喜田恵子教務学生部長から父母会の協力に対する感謝の言葉があり、盛会のうちに定期総会は無事終了しました。

また、定期総会に引き続いて、父母と大学教員との学年別懇談会が開催され、大学側からは各学年の主任、副主任が出席して活発な意見交換などが行われるなど大変有意義な会となりました。この学年別懇談会は、父母会と大学の双方が定期的に情報交換や意見交換を行うことにより、学生がより良い学生生活を送れるよう毎年行われています。

## 主な役職者の改選

### ○ 医学部 【産業保健科学センター長】



鈴木 孝太  
(衛生学講座・教授)

産業保健科学センター長を拝命いたしました。本センターではまず、時代とともに移り変わる産業構造、そして、多様な労働環境を客観的に把握し、科学的な

エビデンスを基に、働く人々の健康増進、疾病予防を促進し、社会に貢献して参りたいと思います。

(新任、任期：H28. 5. 16～H29. 3. 31)

## 大学運営審議会の設置

本学では、これまで「本学における重要な事項を審議する場」として、「大学評議会」を設置し運営してきました。平成27年度から施行された改正学校教育法の趣旨は、大学運営に最終責任を負う学長が、最終的な決定権を行使できるようにしていくことが必要とされており、大学の組織及び運営体制を整備する為、副学長の職務内容を改めるとともに、教授会の役割が明確化されました。

学校教育法の改正により副学長の職務が拡充されたことも踏まえ、学長が最終的な決定権を行使するに当たり、副学長（学部長等）の意見を聞く場として、従来の大学評議会組織を見直し、教育・研究・診療に係る重要事項及び将来構想等を審議する為に、学長と副学長を中心とする新たな審議組織として、平成28年4月1日付けにて「大学運営審議会」が設置されました。

平成28年4月18日（月）に第1回大学運営審議会【写真】を開催して以降、これまでに8回の審議会を開催しています。構成員各人が多忙の中ではありますが、迅速性を重視し、開催時間を調整しながら積極的に開催しています。

審議会では、各種規則の改廃に係る審議のほか、副学長から学部・病院の動向や課題等について随時報告がされており、両学部間での情報共有が図られています。



また、今年度の大きな課題として、「教授の選考方法の見直し」に関する審議が進められており、複数回にわたる大学運営審議会において活発な意見交換がされています。今後は、「学長選考方法の見直し」について検討していく予定です。

<構成員>

学 長	佐藤 啓二
副学長（医学教育担当）	岡田尚志郎
副学長（看護学教育担当）	白鳥さつき
副学長（診療担当）	羽生田正行
副学長（特命担当）	若槻 明彦
事務局長	羽根田雅巳

## 平成28年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座  
～学んで守ろう自分の身体～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しています。平成28年度の公開講座は、テーマを「学んで守ろう自分の身体」と題し、9月3日（土）から毎週土曜日の計4回にわたって開催することとなりました。

受講方法及び内容等は次のとおりです。

【受講方法】

・受講対象者	一般市民	・会 場	本学たちばなホール
・募集人数	400人	・申 込 先	公開講座1係
・受 講 料	無料		

【内容等】

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月3日（土）	10：00～12：00	認知症とは… 脳卒中センター 准教授 泉 雅之
		認知症および高齢者にみられる精神症状 精神神経科 講 師 深津 孝英
9月10日（土）	10：00～12：00	上手にきたえよう！関節と筋肉 整形外科 教授 出家 正隆 リハビリテーションセンター 主任 安江由美子
9月17日（土）	10：00～12：00	感染症のひろがり方 感染看護学 准教授 長崎由紀子
		災害時の避難所生活で流行しやすい感染症と予防 感染看護学 教 授 佐藤 ゆか
9月24日（土）	10：00～12：00	大地震発生！！さあ、あなたは どうしますか！？ 災害医療研究センター 教 授 中川 隆 災害医療研究センター 助 教 小澤 和弘

## 学長招聘講演会開催 前文部科学副大臣 丹羽秀樹先生

平成28年5月20日（金）午後5時から、大学本館302講義室において、前文部科学副大臣の丹羽秀樹衆議院議員を講師にお招きし、「医学教育の現況と展望，私立大学の振興等について」と題し、学長招聘講演会が開催されました。【写真】

講演では、「医師養成数に関する最近の動向」，「医学教育の改善・充実」，「医学教育関係予算」，「私立大学等関係予算」の四つの視点から、文部科学省における各種事業の概要、大学における取組方や課題等について、それぞれのポイントを分かり易くご説明して頂きました。

講演会には、事務職員を始め多くの教職員の参加があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



## 熊本地震におけるDMAT・DPAT活動報告会開催

平成28年4月14日（木）、16日（土）に熊本県を襲った大地震により甚大な被害を受けた熊本地方に対して、本院では発災直後からDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣準備を進め、DMAT隊（3チーム）及びDPAT隊（1チーム）の計4チームを派遣しましたが、各チームの活動報告会が、平成28年6月28日（火）午後6時から大学本館たちばなホールにおいて開催されました。

DMAT隊は、被災直後の4月17日（日）から1チーム目（看護師1名、調整員2名）が派遣され、続いて4月18日（月）に2チーム目（医師2名、看護師2名、調整員1名）、更に4月21日（木）から3チーム目（医師1名）がそれぞれ派遣されました。

また、DPAT隊（災害派遣精神医療チーム）は1チーム（医師1名、看護師1名、調整員1名）が5月22日（日）から28日（土）まで派遣されました。

DMAT隊の今回の任務は、本部運営の中心的な役割を果たすことであり、直接被災者の方々に対応する任務とは違った難しさを感じたとの報告がありました。また、DPAT隊は本院から初めての派遣でしたが、大変貴重な経験ができたとの報告があり、報告会に集まったたくさんの教職員は興味深く聞き入っていました。

当日は、三宅養三理事長から派遣職員に対して感謝状が手渡され、報告会は盛会のうちに終了しました。

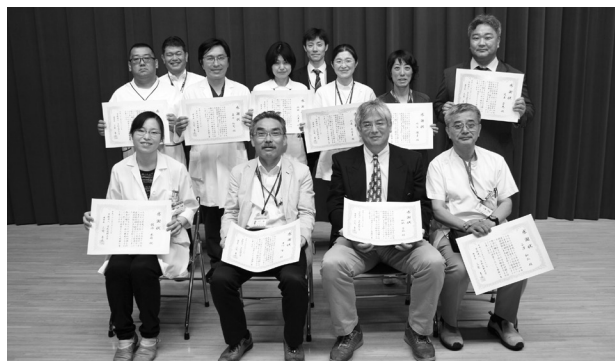
本院では、今後も大規模災害に際して、基幹災害拠点病院としてのリーダーシップを如何なく発揮し、地域の復興支援に尽力いたします。



出発前の写真撮影（DMAT）



出発前の写真撮影（DPAT）



派遣された職員での記念撮影

# 新病院を中心としたキャンパス整備事業へのご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学  
理事長 三宅 養三

愛知医科大学は、創立40周年を経て、教育、研究、診療の各分野において順調な発展を果たし、多くの優れた医師、看護師を世に送り出してきました。

更なる飛躍をめざし、創立40周年記念事業として平成18年から始まったキャンパス整備事業は、本丸である新病院が平成25年11月に竣工し、平成26年5月に無事開院いたしました。

新病院は、多くの先端医療機器を配置しており、手術室や重症系の病床を大幅に増床し、ドクターヘリなどを駆使した救急医療・地域医療の一層の発展に貢献します。また、従来の専門特化した医師だけでなく、幅広い疾患に対応できる総合性を持った医師の育成、研究の場としても十分な活用を図ります。

愛知医科大学は、新病院とともに更に飛躍をいたします。厳しい経済情勢ではありますが「新病院を中心としたキャンパス整備事業」の趣旨をご理解いただき、募金に対する格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 【募金要項】

1. 募金目的 新病院を中心としたキャンパス整備事業資金
2. 募金目標額 10億円
3. 募金1口の金額 10,000円  
※できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。
4. 募金の期間 募集中

## 【寄附金に対する税制上の優遇措置について】

### 1. 個人の場合

ご寄附をされた方は、確定申告の際、「税額控除制度」と「所得控除制度」のうち、どちらか一方の有利な制度を選択し、税制上の優遇措置を受けることができます。

#### <税額控除制度>

寄附金額が2千円を超えた場合、その超えた金額の40%に相当する額を所得税から控除できます。

所得税率に関係なく所得税額から直接控除されるため、多くの方において、「所得控除制度」と比較して減税効果が大きくなります。

$$\left( \text{寄附金額※1} - 2 \text{千円} \right) \times 40\% = \text{所得税控除額※2}$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

※2 所得税額の25%が限度となります。

(例) 年収1000万円の寄附者が10万円寄附した場合

$$\left( 10 \text{万円} - 2 \text{千円} \right) \times 40\% = 39,200 \text{円}$$

#### <所得控除制度>

寄附金額が2千円を超えた場合、その超えた金額が課税所得から控除され、所得税が減税されます。

$$\left( \text{所得金額(年収)} - \left[ \begin{array}{l} \text{諸控除} \\ \text{寄附金※1-2千円} \end{array} \right] \right) \times \text{所得税率} = \left[ \begin{array}{l} \text{所得税額} \\ \text{控除額} \end{array} \right]$$

※1 年間総所得金額等の40%が限度となります。

(例) 年収1000万円の寄附者が10万円寄附した場合

$$\left( 10 \text{万円} - 2 \text{千円} \right) \times 23\%※1 = 22,540 \text{円}$$

※1 平均的な世帯の諸控除額(基礎控除、社会保険料控除、扶養控除等)を想定した所得税率

## 2. 法人・団体の場合

### <受配者指定寄付金制度>

法人・団体の寄附金は、法人税法第37条第3項第2号に基づき寄附金額全額が当該事業年度の損金に算入できます。

免税手続きには日本私立学校振興・共済事業団の「寄付金受領書」が必要となりますが、これに関する事業団への諸手続きは、本学が行います。

### 【問合せ先】

資料請求等募金に関するお問い合わせは、次の部署にお願いします。

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室  
Tel: 0561-63-1062 (直通)  
Fax: 0561-62-4866  
E-mail: sikin@aichi-med-u.ac.jp

## 研究費等適正執行研修会開催

平成28年5月19日（木）・20日（金）の2日間にわたり大学本館203講義室において、研究費等適正執行研修会が開催され、83名の出席がありました。

この研修会は、本学における研究費の経理処理を担当する職員及び研究活動に携わる技術系職員を対象に、研究費を適正に執行するための基本的な留意事項、執行ルール及び不正防止等並びに会計処理の留意事項の修得を目的として開催されたものです。

研修会では、島田孝一法人本部長から「本学における研究費の適正管理体制の重要性」について説明があり、研究支援課の古山昂勢主事から「研究費の適正執行の留意説明」、財務・管理室の河合隆志主査から「会計処理の留意説明」の説明を行い、研究費等の適正執行について理解を深めました。



研究費の適正管理体制の重要性を説明する島田法人本部長

本学では、引き続き研究活動活性化とともに、研究費等の適正管理体制の構築を目指していきます。

## 研究費に係る臨時職員出勤簿処理方法変更に関する説明会開催

平成28年6月21日（火）・22日（水）の2日間にわたり大学本館5階マルチメディアA教室において、研究費により、採用されている臨時職員出勤簿処理方法の変更説明会が開催され、31名の出席がありました。

この説明会は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成26年2月18日改正 文部科学大臣決定）において強く求められている臨時職員の出勤簿の管理及び勤務内容の確認に対応するため、平成28年7月1日からの臨時職員出勤簿処理方法の変更に伴い、臨時職員の各所属先（講座等）で実際に管

理している助手、臨床技術員等を対象に開催されました。

説明会では、研究支援課の多々良英矢主査から、「臨時職員出勤簿様式の変更」及び「臨時職員出勤簿処理方法の変更」についての説明があり、出勤簿処理方法の変更説明では、その具体的手順について、パソコン操作を用いた実践的な処理方法の説明会となり、所属長による勤務管理の明確化や出勤簿管理業務の効率化を図るとともに、本学の不正防止対策に向けて意義のある説明会となりました。

## 研究者等による消耗品の発注・納品検収方法変更説明会開催

平成28年6月21日（火）及び22日（水）の2日間にわたり大学本館5階マルチメディアA教室において、研究者等による消耗品の発注・納品検収方法変更説明会が開催され、81名の出席者がありました。

この説明会は、「公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる研究用物品の発注及び納品検収業務について（学長裁定）」が平成28年5月1日に改正され、この改正に伴い各研究費の会計担当者等を対象に開催されました。

説明会では、研究支援課の多々良英矢主査から、消耗品の発注・納品検収方法の現状、変更点及び変更後の具体的手順について説明がありました。

大きな変更点としては、研究者等の消耗品等発注情報を研究支援課に送付、その発注データを元に三者（研究者等、納品業者、研究支援課）による納品検収となる旨の説明があり、本学の発注・納品検収に関する不正防止対策の取り組みとして、意義のある説明会となりました。

# 教授就任インタビュー



衛生学講座・教授

すずき こうた  
鈴木 孝太

## — 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

近年、「健康の社会的決定要因」という言葉をよく見かけるようになりました。人々の健康状態に、生活習慣などの個人レベルの要因だけではなく、その人を取り巻く社会的な状況が影響している、という考え方です。衛生学でも、近年では物理的、科学的な外的要因に留まらず、個人を取り巻く社会的要因が健康に与える影響についても検討しており、人々の日々の暮らしや働く人の健康を守るために重要な役割を果たしています。一方で、医師は個人の暮らしに目を向けて、一人ひとりの違いを考慮した医療を提供することも求められています。

私はこれまで個人と集団、その両者のバランスを大切にしながら、医師そして研究者として仕事をしてきました。これからは学生や若い研究者が、一人ひとりの患者さんから、その周囲にいる人、そして社会におけるその人の生活までを広く深く考えると同時に、社会における問題が人々の健康にどのように影響しているのかを俯瞰できるよう、常に「社会」を意識した教育、そして研究を行いたいと考えています。更に、自らも一研究者として、「社会」に貢献できるような研究を、世界に向けて発信することを継続していくつもりです。

## — 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

学生時代から病院の中よりも、社会の中での医師の役割に興味があり、医学部6年生の時には、社会医学講座（山梨大学・山縣然太郎教授）で実習を行いました。卒後入局した産婦人科での研究も、代理出産についての社会における意識など、個人よりも集団をテーマにしたものが多く、これらの研究をきっかけに臨床を離れ、社会医学講座の教員となりました。

その後は、臨床経験を活かして、母子保健に関わる研究、特に妊娠中から子どもの発育・発達を追跡する出生コホート研究に携わってきました。数多くの人に関わって成り立っている疫学研究の実践、また、貴重なデータから導き出される社会の一断面の興味深さに魅了され、現在に至っています。

## — 学生へのメッセージをお願いします。—

私自身、学生時代は部活動（アイスホッケー）に夢中になっており、毎日のようにリンクで練習していました。結果として、山梨県の代表チームに選抜され、社会人や他の大学の皆さんとスポーツを通じて交流することができました。今でも、そのつながりはとても貴重なものになっています。最終的に、国家試験に合格することは当然の目標ですが、学生時代にしか経験できないこと、特に、医学部の外の世界を広く知ることはとても大切なことです。また、学生時代には、知らないこと、できないことがあって当然です。自分にはできないと簡単にあきらめることなく、興味を持ったことには何でも挑戦してもらいたいと思いますし、できる限り応援したいと思いますので、いつでも気軽に声をかけてください。

オフショット



休日のコマ



病院病理部・教授

つづき  
都築 とよのり  
豊徳

— 教授就任に当たっての  
抱負を聞かせてください。—

病理自体になじみが少ない方が見えると思いますので、私たち病院病理部が主に扱う外科病理の話を見せて頂きます。最初に、病理学は病気の機序を解明することにより、近代医学の礎を築いてきました。1920年代から、米国を中心に診断に特化した病理学の分野が作り出されました。これが現在、世界中の医療機関で行われている外科病理の始まりです。私どもは、患者さんから採取された病変部を標本化し、観察することにより病気の診断、最適な治療方法及び予後を予測することを行っております。各診療分野の進歩は著しく、病理もその要求に応える必要があります。また、DPCが一般的となった現状では、診断精度のみでなく、迅速な診断結果が要求されます。また、診断手技の変化、分子生物学的な診断項目にも応えていく必要があります。私は常に最新の情報を取り入れ、正確で迅速な病理診断を行っていきたくと考えております。それとともに、愛知医科大学を中心として、日本の症例を集積・解析し、世界に発信できる臨床病理学的研究を行っていきたくと考えています。ガイドラインを遵守する医療機関から、ガイドラインを発信する医療機関へと愛知医科大学を発展させるお手伝いをしていきたくと思います。

— 現在の研究分野に進まれた  
きっかけを教えてください。—

実はあまり良く覚えていません。本学病理学講座の佐賀信介前教授に誘われたのが契機であったと思います。私の出身校である名古屋大学では、5年生から6年生にかけて、学生にCPC（臨床病理検討会）を行わせる伝統があり、その際に、New England Journal of MedicineのCPCに触れました。その時の担当は臨床部門であったのですが、そこで外科病理の面白み及び医療における重要性を知り、外科病理に取り組み始めました。大学院を修了した直後に参加した米国・カナダ病理学会で、当時日本では一般的ではなかった前立腺癌手術及び系統的な前立腺針生検の標本を用いた病理診断に触れました。今後は、日本でも盛んになる分野であるとその場で確信し、その時から泌尿器病理が私の重要な専門分野の一つとなりました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

医学のすそ野は広く、それぞれ分野に魅力があります。早い時期に自分の専門を限定せず、自分が本当にやりたいこと、自分が必要とされている分野を見つけて下さい。学生時代は医師となるべき基礎知識を身に付けるとともに、二度とやってこない自分探しの時でもあります。知識が進んだ現代医学こそ、温かい血が通った医療である必要があります。医学書以外の本を沢山読まれることをお勧めします（医学書も読んで下さいね）。また、コミュニケーション能力を高めて下さい。皆さん達の言葉が患者さんの病気を癒す最大の治療となります。

最後に、興味があればいつでも病院病理部を訪れて下さい。決して後悔はしない選択となることをお約束します。



ホームパーティーで昔からの仲間と

## 医学部3学年次生の高橋周治くん

### 第100回日本陸上競技選手権大会（男子100m）で7位入賞

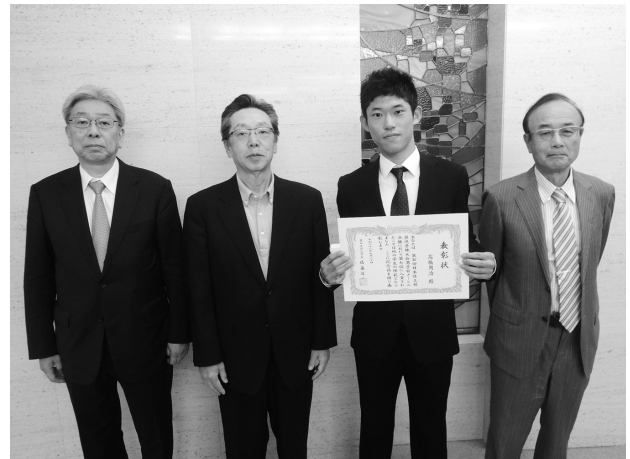
医学部3学年次生の高橋周治くんが、平成28年6月25日（土）パロマ瑞穂スタジアムにおいて開催された第100回日本陸上競技選手権大会（男子100m）で7位入賞を果たしました。（タイム10秒49）

高橋くんは、リオデジャネイロ五輪の予選も兼ねた日本中の注目・関心が集まる本大会の男子100mにおいて、予選6組・1位、準決勝1組・2位と快走し、決勝では日本トップクラスの選手と肩を並べて走り抜け、7位と大健闘でした。

地元・愛知県での彼の勇姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。たくさんの応援ありがとうございました。

また、彼のこの功績を称え、平成28年7月20日（水）役員室において、表彰式が開催され、三宅養三理事長、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長からお祝いの言葉を掛けられ、表彰状及び記念品が贈呈されました。

高橋くんからは「この度多くの方のご声援に後押しされ、日本選手権100m・7位入賞という結果を得ることができました。優勝されたケンブリッジ飛鳥選手を始めとして9秒台を狙える実力者の争いに世間の関心を集めたこともあり、私にも多くの方からお祝いのお言葉を頂けたことが何よりも嬉しいです。ありがとうございました。本大会は100回目の記念大会、それも地元の名古屋市での開催でしたので、絶対に結果を残そうと大きな意気込みを抱いて臨みました。しかし、去年は9月から12月にかけて、ほぼ毎日解剖実習があり、陸上部の練習にあまり参加することができず、冬季練習は一人でいたので、自分が本当に速くなっているのか、今の練習は意味があるのかなど悩んだり、自分の体を追い込むために気持ちを強く持ち続けたいといけない難しさを感じていました。そうした中で決勝進出という最低限の結果を残すことができ、安堵の気持ちで一杯です。陸上競技は中学生から始め、最初はそれほど速くはありませんでしたが、先輩からの熱心なご指導や自分で速く走るためにはどうすればいいかを考えるようになると高校2年生の時には、全国大会で入賞するほどになりました。そのころから漠然と日本代表になりたいという夢を持ち、受験勉強などでブランクはありましたが、入学後からより一層その思いは強くなり、今回の大会を終えて少しかその夢に近づいている実感が出てきました。ですが、トップの方々には二歩、三歩も及びません。これからCBT、ポリクリ、国家試験が控えており、順調にいけば東京五輪の2020年には研修医となっています。医師に



三宅理事長、佐藤学長、岡田医学部長と記念撮影



大会会場において記念撮影

なりたいという別の目標を見つめながら、トップの方々との距離を縮めるのは容易ではないと思いますが、勉強も陸上もやらせて頂ける環境に感謝してどちらも精一杯頑張っていこうと思います。」と熱いメッセージが寄せられました。



## 医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、平成27年度の成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉学態度等が他の模範となる学生に対して適用された成績優秀者に対し、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

平成28年5月10日（火）午後5時から、7号館（医心館）1階多目的ルームで医学部学生2～6学年次生の各学年5名の合計25名に対して、佐藤啓二学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



成績優秀者の学生と記念撮影

## 医学部1学年次生シンポジウム開催

～愛知医科大学に期待すること～

平成28年5月25日（水）大学本館たちばなホールにおいて、医学部1学年次科目「医療人入門」、「行動科学」の授業の一環としてシンポジウムが開催されました。

生物学の武内恒成教授、生理学講座の増渕悟教授、衛生学講座の鈴木孝太教授の司会進行のもと、長久手市長の吉田一平氏、長久手市教育委員の加藤正雄氏、本学OBであり衆議院議員の河野正美氏の3名を講師としてお招きして、それぞれのお立場から「愛知医科大学に期待すること」をテーマにご講演して頂きました。

プロとして働くにあたって必要なのは「挨拶」や「整理整頓」という一見当たり前のように思えることであるというお話や、街全体が協同しやすい環境作りが必要であるといったお話し、更には、医師として直面した社会の現実を変革するために衆議院議員となったという「医師としての選択」についてのお話しは、どれも学生達の将来の医師像や社会へのイメージを考えるよい機会とな



吉田市長による講演

りました。

質疑応答の時間には、学生から活発に質疑がなされ、会場で同席した三宅養三理事長から激励を送る場面もあり、学生にとって非常に有意義なシンポジウムとなりました。

## 学生表彰

平成28年3月28日（月）～30日（水）福島県郡山市で開催された第121回日本解剖学会総会・全国学術集会において、本学医学部3学年次生の山田崇義さん始め6名による研究発表「自己学習啓発型骨学実習手びきの提案－WFME国際認証に向けて－」が優秀発表賞を受賞しました。

これを受け、他の学生の模範となるこの受賞を評価し、平成28年7月4日（月）役員室において、佐藤啓二学長から6名に表彰状と記念品が贈呈されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。



記念撮影

（左から中里尚貴さん、山田崇義さん、横井宏幸さん、南川大輔さん、今枝陽さん）

# 南イリノイ大学医学部短期留学体験記

本学では、現在南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、この交換プログラムの一環として、臨床実習選択（Elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ本学医学部学生を派遣しています。

平成27年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成28年1月30日（土）から3月27日（日）まで4名の、また、PBLコースへ3月12日（土）から4月3日（日）まで7名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

## 「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

### 医学部6学年次生 加藤 智大

私は南イリノイ大学留学での2か月間の実習を通して、たくさんのことを学ばせて頂きました。感染症科、家庭医療科、内分泌内科で実習を行い、具体的には感染症科ではAIDSの患者さんを受け持ち、毎日診察を行い、治療計画を立てました。家庭医療科では、多くの患者さんを診察し、指導医へプレゼンテーションを行いました。そして内分泌内科では、ジャーナルクラブにて論文を指導医の先生方に紹介しました。この他にも、この場では書ききれない程、多くのことを学ばせて頂きました。

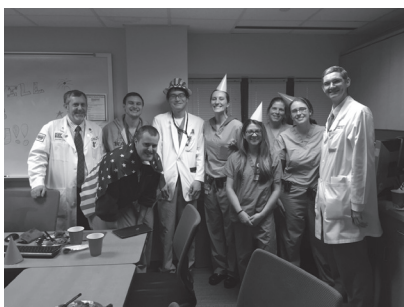
今後は、今回の留学で得た経験、知識を糧に残りの学生生活、その先の医師としての生活に活かしていきたいと考えています。



加藤さん（中央）

### 医学部6学年次生 高橋 寿彰

この度、南イリノイ大学医学部で8週間（救急科、外傷外科を4週間ずつ）臨床留学をし、非常に素晴らしい経験をさせて頂きました。これまでの2回の留学でのPBLで学んだKeywordは「Why」という言葉でしたが、今回臨床実習で学んだKeywordは「If」と「What next?」という言葉でした。「もしこのような患者が来たら」、「もしこの患者がこのような基礎疾患を持っていたら」、「もしこの患者においてこのように容態が変化したら」など、そのように一人の目の前の症例から次に活かそうという心掛けは、これからも自分の中で大切にしていこうと思いました。また、救急医療や外傷治療などのダイナミックに状況が変化する状況で大事なのが、「次に何をすべきか」ということでした。上級医も医学生に常にそのことを質問してきます。そのような環境の中で、米国の救急医療の面白さ、難しさ、素晴らしさに気付かされた2か月間でした。



高橋さん（左から4人目）

### 医学部6学年次生 間瀬 宏美

私は南イリノイ大学で2か月間、麻酔科・腎臓内科・家庭医療科で実習させて頂きました。麻酔科では、挿管を経験すると同時に様々な手術見学をしました。腎臓内科・家庭医療科では、病院・クリニックそれぞれにおいて毎日患者の問診や情報集めをし、プレゼンテーションを行いました。これらの実習全体を通して英語の向上はもちろん、特に問診の取り方やプレゼンの仕方をしっかり学びました。今までの日本での実習を振り返ると、患者さんの治療方針を自分であまり考えていませんでした。更に、フィードバックを受ける機会が少なかったことに気がきました。これからは受け身の姿勢でなく積極的に実習に参加し、担当した患者さんの治療計画に関して先生方と討論できるようになりたいです。



間瀬さん（中央）

### 医学部6学年次生 森 智世

外科の朝は早く、私の留学していた胸部外科では回診が午前6時から始まります。そのため、その1時間ほど前から自分で患者さんを診て、回診時に患者さんについてのプレゼンテーションをし、その後オペに入るというハードな生活が続きました。また、アメリカでは医学生もチームの一員、即戦力として扱われるため、要求されるレベルは日に日に上がっていきます。

毎日が挑戦の連続の中、実習をやり終えた時には自分なりの多くの課題を見つけ、また、経験に伴った自信を付けることができました。この貴重な経験を次に活かしていきたいと思っています。



森さん（左）

## 「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

### 医学部5学年次生 西塔誠幸

南イリノイ大学に3週間程度留学させて頂きました。南イリノイ大学の学生と一緒に授業を受けたり、PBLを一緒に行くなどしました。授業では、一つの臓器の疾患を勉強する際に生理学、臨床、病理学、薬理学の先生などが講義をしてくださり、とても分かりやすかったです。出席している生徒は少なかったが、皆とても熱心に授業を聞き、適宜質問をしていました。日本では、皆の前で質問する生徒は少ないので驚きました。PBLでは、出てきた症例について議論し、正常構造や病態、治療薬の作用機序など疑問に思ったことを追及して勉強していました。南イリノイ大学では、とても有意義な経験ができました。日本でも疑問に思ったことを追究して勉強していきたいと思います。

### 医学部5学年次生 福井隆彦

今回が初めての留学で確かに不安でした。留学中の主なスケジュールは、SIUの学生に日本人1人が混じってグループワークを行うことでした。グループワークでは、とても早い英単語が飛び交い、何度も頭が停止してしまいそうになりましたが、なんとか必死に頑張りました。最初は緊張したものの、少しずつ慣れてくると、日本の学生と大して変わらないことに気付きました。そして、最終週にはSIUの学生と同様に、2～3分のプレゼンもやらせて頂きました。何事も試みることは重要です。今回の留学で、文化の違いや共通点も見つけ、そして、改めて自分の実力を知ることができました。この経験はこれからの人生の宝となることは間違いのないでしょう。

### 医学部5学年次生 三谷真由

南イリノイ大学に海外留学することは、入学当初から目指していたものでした。PBLや授業を実際に経験することで、アメリカと日本の違いに触れることができました。両方に良い点があり、学生ならではの視点でそれらを体験することができました。そして、毎日英語や医学の勉強に追われながらも、たくさんの素晴らしい人々との出会いがあり、毎日が充実した貴重な3週間を過ごすことができました。

### 医学部4学年次生 山内桂花

SIUのPBLコースでは、日本人だけのTutor Session、一人ひとり別のSIUの学生のグループに混ざるディスカッションを各週2日ずつ行いました。また、講義を受け、クリニック見学、head-to-toeも行いました。先生も学生もとても親切で、勉強面だけでなく、放課後や週末も充実していました。SIUの学生は積極的に意欲的に学習しており、失敗や恥を怖れず挑戦することで成長できるのだと感じました。1週間目と比べて、3週間目にはディスカッションでの発言もSIUの学生と話すことも積極的にできるようになりました。また、自分の英語力や医学の知識の不十分さを痛感しました。自分に足りない点に留学した3年生で気づけて良かったです。この留学経験を活かしこれから意欲的に学んでいきます。

### 医学部5学年次生 李麗佳

私にとって今回は2回目のPBLコースでしたが、同じプログラムにもう一度参加できて本当に良かったと感じています。知識が増えた分、昨年よりも活発な議論ができました。PBLを通して疾患について学ぶことは、考え方がより臨床現場に近く、主体的に学ぶことで記憶にも残りやすいので、ユニットごとにPBLをするSIUのカリキュラムは理に適っていると思います。3週間、楽しく勉強することができました。また、アメリカに来なければ出会うことのなかった多くの友達や先生方、街の人々との交流の中で、日本では聞くことのできない意見や考え方、お話に触れられたことが大きな収穫であったと思います。今後もこの経験を糧に、日々精進して参りたいと思います。

### 医学部4学年次生 岩瀬史歩

SIUでは、SIUの学生とともにPBLや講義に参加させて頂き、アメリカと日本の学生生活や文化、医療の相違を感じる事ができました。SIUの学生のPBLに対する積極的な姿勢や論理的な思考力、豊富な知識やモチベーションの高さに感銘を受けました。彼らは常にWhy?と考へ、基礎医学と臨床医学を結び付けようとしていました。アメリカで医学を学ぶ学生と出会い、ともにPBLに取り組むことによって、自分の勉強法や生活を客観的に見つめ、モチベーションを向上させる良い機会になりました。今回の留学で経験したことを、これからの学習に活かしていきたいです。

### 医学部4学年次生 早川量子

PBLでは、SIUの学生が6人程度所属しているグループに、私たち愛知医科大学の学生は一人ひとり配置され、最初は緊張しましたが、向こうの学生はとても親切で安心しました。PBL以外の場面でも、講義室での座学の授業では休み時間に話しかけてくれたり、放課後には夕食に連れ出してくれました。

同じチューターグループの学生に「4年次の愛知医科大学への留学も考えている」と話してくれた子がいて、その時には是非どこかへ案内したいと思いました。



日本人セッショングループでの集合写真  
(SIU 2学年次カリキュラム受講コース派遣者全員)

# 医学部早期体験実習体験記

平成28年度医学部新入学生による早期体験実習（看護体験）が、平成28年6月6日（月）から8日（水）の3日間にわたり、本院の各病棟において行われました。体験実習を終えた学生の感想文を紹介します。

## 他職種間の連携を学ぶ

実習病棟：14B病棟（血液内科）

1学年次生 恒川 礼奈

6月6日から8日までの3日間において1学年次早期体験実習が行われました。看護体験を通じて医療の現場における看護師の役割を知ることはもちろんのこと、他職種同士の連携を医療従事者側の目線で実際に見ることを目的とし、実習に臨みました。

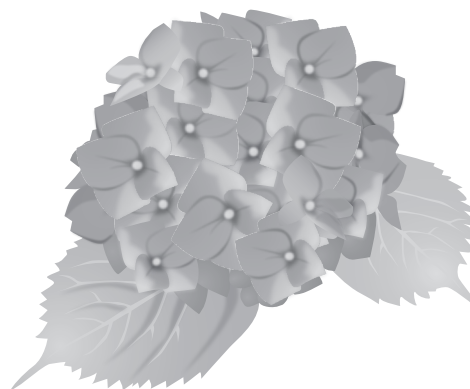
私が実習を行ったのは血液内科です。血液内科は、白血病や悪性リンパ腫といった血液のがんを多く取り扱っていて、この診療科の大きな特徴として次の2点が挙げられます。1点目は、他の診療科に比べて長期入院が多いということです。ほとんどの患者さんの入院期間が1か月以上と長期になるため、患者さんはもちろんそのご家族との関係性も大切になってきます。2点目は、化学療法が主な治療法の一つであるということです。血液は全身をめぐるものですから、全身への影響がとて大きく出ます。特に化学療法の副作用はつらく、ほとんどの方が身体的にも精神的にも不安やストレスを多く抱えているので、サポートとしてケア専門の看護師や臨床心理士などが待機しており、様々な職種との連携がある病棟です。

3日間の実習を終え、医師ひとりで患者さんを救っているのではないことを改めて強く感じました。医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、補助さん、事務の方、多くの方々の連携がそこにはありました。例えば、抗がん剤を投与するにしても、まず医師が薬の指示を出し、薬剤師が薬をまとめチェックします。チェックを終えたという連絡が入ると、補助さんが薬剤部まで取りに行き14Bフロアまで運びます。その薬が正しい分量かを看護師がもう一度自分の手で計算し直して、ようやく患者さんに投与される、という流れです。どの過程が欠けてもこれは成り立ちません。チームで活動するとはこういうことなのだと痛感した場面でした。

看護師とともに活動させて頂き、明るく元気な笑顔、廊下で患者さんとすれちがう際の何気ない会話、ベッドの高さに合わせて腰を下げ視線を合わせて話しをする姿などを隣で見ている、強く考えさせられることがありました。それは、治療に取り組む単調な毎日の中で、一番近くにいる看護師は、患者さんにとってどれほど大きな存在だろうかということです。常に患者さんに寄り添い、真摯な気持ちで誠実に一人ひとりと向き合う姿に心を打たれました。

実際の現場に立つことで、今までは患者として、あるいは第三者的な視点としてしか見えていなかった医療の世界を、今回初めて医療従事者側の立場から考えることができました。医療の現場における看護師の役割、よく耳にするチーム医療という言葉の意味、ある程度は理解していたつもりでしたが、やはり「つもり」でしかなく、自分の目で実際に見て初めて知ったことや学んだことが多くありました。そして看護師の立場を経験して、看護師の存在なくして医療の現場は回っていかないと感じたと同時に、そういった存在があって初めて自分の仕事もできているのだという意識をいつまでも持ち続ける、それぞれの専門職を尊重する姿勢の医師でありたいと思いました。

最後になりましたが、お忙しい業務の中、丁寧に指導して下さった看護師長さんを始めとする看護師の方々に感謝いたします。



## 熱中症予防の講演会開催

平成28年7月6日（水）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、運動クラブ部員を中心に、救命救急科の青木瑠里講師及び大塚製薬株式会社の石田晋也氏による熱中症予防の講演会が開催されました。

青木講師からは、熱中症は死亡につながるので軽く考えないこと、水分補給だけでは体のミネラルが補充されないため、結果的に体液不足の状態になってしまうこと、軽い運動を1週間程度継続し、汗を効率良くかける体を作る「暑熱順化」も大切なことなどを分かりやすくお話頂き、石田氏からは熱中症の予防には塩分だけではなく、甘さを含む適切な飲料がより効率良く体液を補充できること、熱中症予防の飲み物と熱中症にかかった後の飲料は別と考え、両方準備しておくことが最良であることなどの内容で講演して頂きました。

折しも、これからが熱中症の本番の時期であり、8月上旬から徳島県で開催される第68回西日本医科学学生総合体育大会（西医体）に向けて、クラブの練習も夜間から



日中に移行する時期となるため、参加した約400名の学生も真剣に耳を傾けている様子でした。

この講演会で得た知識を活用して練習や試合に臨み、安全かつ効率的な活動を行い、西医体の上位入賞を期待します。

## 平成28年度第1回医学部FDセミナー開催

平成28年7月21日（木）医学部講義室において、東京医科歯科大学特命教授・日本医学教育評価機構（JACME）理事の奈良信雄先生をお招きして、第1回医学部FDが開催されました。【写真】

本学は平成31年度に医学教育分野別認証を受審する予定で、今回のFDはこの受審準備のために必要な知識を関係教員が共有することを目的としています。当日は、奈良先生に分野別認証の意義とその受審のために必要な医学教育改革についてご講演頂いた後、医学教育分野別評価基準日本版に基づく自己点検評価書の作成方法等も解説頂き、参加した教員は8グループに分かれて、自己点検評価書の一部を実際に作成する作業を体験しました。

自己点検評価書の作成は非常に複雑なタスクであり、全国の各大学医学部とも多くの教員がチームを組んで1年近くかけてこれに取り組んでいます。これから平成31



年度受審までの作業過程の概要を把握するため、今回のFDではこのタスクのごく初歩的な作業を体験しました。そのような意味で、受審に向けて非常に有意義なキックオフで、活発な意見交換が行われ、参加教員の意識も非常に高いものとなりました。

## SNS活用のリスクと対策～自分と大切な人を守るために～ SNS講演会開催

平成28年6月13日（月）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、看護学部全学生を対象にソーシャルネットワークサービス（SNS）活用際に知っておくべきモラルやリスクを学ぶことを目的としたSNS講演会が開催されました。

講師には、浜松学院大学短期大学部・教授の今井昌彦先生を迎え、メディア画面を駆使し、学生にとって身近な事例を用いながら、SNSの持つリスクを分かりやすく解説して頂きました。今井先生は、将来のことを考えて

行動することの大切さやSNS上で発信する内容は日常生活で行ってよいことかどうかをきちんと判断するべきだと話されました。

参加した学生からは、SNSの持つリスクについて貴重な学びを得たという感想が数多く寄せられました。今後、最新の注意を払ってコミュニケーションを楽しむことや安易に写真をSNSにアップしないこと、写真の位置情報を消すことの重要性など具体的な対処についてのコメントもあり、大変有意義な講演会となりました。

## 一般財団法人愛知医科大学愛恵会 教育研究奨励金研究成果報告会開催

一般財団法人愛知医科大学愛恵会においては、顕著な業績を挙げつつある若手研究者又は萌芽を生み出しつつある若手研究者に対して、その研究を発展させるために助成することを目的とした教育研究奨励金（研究助成）制度を毎年実施しており、平成27年度についても医学部及び看護学部の多くの希望者の中から、各学部において候補者が選考され、応募して頂きました。一般財団法人愛知医科大学愛恵会の審査を経て、医学部6名、看護学部3名の教員に対し総額750万円を助成しました。

その助成を受けた研究者による「教育研究奨励金研究成果報告会」が、平成28年5月18日（水）大学本館303講義室において行われました。【写真】

発表者からは、助成金により研究が計画的に推進でき、成果も得られたという点で大変助けられ、また、今回得



た研究結果を更に発展させていきたいというご意見を頂きました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、今後とも若手研究者が本来の力を発揮できるように、事業の継続に努めて参ります。

## 学生ボランティアサークルHIAMU 「医療ケアを必要とする子どもと家族のための絵本ライブ」に参加

平成28年3月6日（日）尾張旭市の勤労福祉会館において、医療ケアを必要とする子どもとその家族を対象に第2回もーやっこジュニアの広場「さんしろ絵本ライブ」が開催されました。

これは、瀬戸市の終訪問看護ステーションを始め、近隣の訪問看護ステーションや障がい福祉サービス事業所、瀬戸旭医師会と学生ボランティアサークルHIAMUが中心となり、瀬戸市や尾張旭市周辺に住む医療ケアを必要とする子どもと家族の楽しみをつくり、小児在宅ケアの研修会を行うイベントで、当日は10名の子どもたちとその家族が参加しました。

本学からも、看護学部の佐々木裕子准教授を始め、HIAMUの学生がスタッフとして、子どもたちや親御さんとの活動やイベントの運営に参加しました。

HIAMUのボランティア部門の班長である医学部5学年次の川瀬冨加さんからは、「当日は訪問看護に関する研修参加者、兄弟ボランティア、各ブース担当の3つに分かれて行動しました。想像以上に慌ただしかったです



会場で記念撮影

が、皆が臨機応変に対応してくれたおかげでとても楽しく、そして、怪我もなく無事に終了することができました。打合せや準備などを時間をかけて行った分、遊びに来てくれた子どもたちの笑顔を見ることができたのは何よりの幸せで、やって良かった、参加して良かったと思いました。」と感想がありました。

### 総合腎臓病センター

本院「腎センター」は昭和54年5月に設置され、人工血液透析のみならず腹膜透析、血漿交換療法、免疫吸着療法、血球除去療法など様々な疾患のニーズにあわせ血液浄化療法全般を担ってきました。

この度、この腎センターを発展的に改組し、平成28年7月1日付けで「総合腎臓病センター」が設置されました。本センターは、腎臓専門医（内科、小児科）、透析専門医、腎移植専門医、泌尿器科専門医、看護師、臨床

工学士、栄養士、移植コーディネーター、腎疾患・移植免疫学研究者など各分野のスペシャリストから構成されています。

本センターでは、腎臓病の早期発見・診断・治療から、腎不全進展の抑制、腎不全合併症の予防・治療、適切な腎代替療法の選択など腎疾患全般について、質の高い医療の提供に努めて参ります。

### 人工関節センター

本院に平成28年7月1日付けで「人工関節センター」が設置されました。人工関節置換術は、変形性関節症、関節リウマチ、骨壊死などの疾患の有効な治療法です。人工関節の利点は、痛みを取り除く効果が高く、早期に日常生活への回復が期待できることです。

人工関節手術は、術前に疼痛コントロールをしながら、筋力・バランス訓練を行い、手術では熟練の医師や看護師による周術期管理がされ、術後に急性期リハビリテーションを集中して行うことにより、初めて優れた治療結

果が得られるものです。

本センターでは、整形外科を中心にリハビリテーション科、運動療育センター、感染症科及び痛みセンター等と連携したチーム医療で患者さんの回復に取り組みます。それぞれの分野の専門家が術前・手術・術後のトータルケアを行い、患者さんにより満足をして頂ける治療を実践いたします。

### スポーツ医科学センター

本院に平成28年7月1日付けで「スポーツ医科学センター」が設置されました。スポーツ外傷・障害を持つ競技者にとって、トレーニングや競技への復帰の過程は極めて重要です。より良い身体状態で、より早期に復帰ができることが大切となります。

本センターでは、整形外科医を中心に競技者のスポーツ外傷・障害及び疾病に対する治療を行い、運動療育センター等も積極的に活用し、その後の復帰に向けて障害

部位の各分野の専門家によるリハビリテーションを実施又は提案をします。

スポーツ障害の予防・治療には、学際的取り組みと多職種によるチーム医療が必要不可欠となります。本センターは、個々の外傷・障害とその重症度、競技に要する身体機能、競技レベルを考慮した治療とスポーツ復帰への過程の道筋をサポートしていきます。

### てんかんセンター

近年、てんかんにまつわる種々の社会問題が取り沙汰されており、適切なてんかん治療に対する社会的需要が高まっています。てんかんは小児から高齢者に至る広い年齢層に分布する疾病であり、付随する精神及び神経症状のため単一診療科での治療が困難であることから、診療科間、施設間での連携が求められており、アンメット・メディカル・ニーズが極めて大きいことが問題になっています。

この社会的ニーズに応えるべく、本院では、精神神経

科、脳神経外科、神経内科、小児科が協働して包括的な治療を行う「てんかんセンター」が平成28年7月1日付けで設置されました。

本センターでは、外科的治療を含めたてんかんの包括的な治療を行うことにより、てんかんの発作のみならず、精神合併症などのてんかん患者の抱える様々な問題点について、新生児から高齢者に至るシームレスなてんかん診療を受けることができる体制を整えています。

## 特定共同指導実施

保険医療機関における保険診療等について定められている「保険医療機関及び保健医療養担当規則」等を更に理解し、保険診療の質的向上及び適正化を図ることを目的として、平成28年6月16日（木）・17日（金）の2日間にわたり、本院では17年ぶりに特定共同指導が実施されました。

1日目の午前には、院内視察及び栄養管理体制、DPC等、医療安全管理体制、手術の施設基準、先進医療等、院内感染防止対策、放射線（治療）、麻酔料等、治験、輸血管理料等について関係部署に指導が行われました。午後

からは、入院40症例、外来10症例について症例ごとに保険医に対し指導が行われるとともに、薬剤部、看護部、事務担当者等に対しても指導が実施されました。また、2日目は午後から、大学本館たちばなホールにおいて、「保険診療の理解のために」の資料を基に集団指導があり、その後、講評を頂き終了となりました。

正式な結果通知は数か月後に届く予定ですが、講評にて指摘された事項については早急に各部署で対処し、常に適正な保険診療に努めなければならないと再認識した特定共同指導となりました。

## 医療安全講演会開催

平成28年7月25日（月）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、医療安全講演会が開催されました。

講演会では、「チーム医療とは何ですか。何ができるとよいですか。－エビデンスに基づいたチーム医療2.0－」と題して、国立保健医療科学院国際協力研究部・上席主任研究官の種田憲一郎氏にご講演を頂きました。

種田氏は「チームSTEPPS（Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety）：医療のパフォーマンスと患者安全を高めるためにチーム

で取り組む戦略と方法」の第一人者で、国際的にも活躍されており、映像や演習を織り交ぜて非常に分かりやすく、チーム医療の重要性をご教授頂きました。映像では、「人はいかに気付かないのか」、「勇気を持って発信することの大事さ」などを、演習では「チームの輪の大切さ」、「言葉の重要性」などを実体験することで、より一層チーム力の重要性を実感させて頂きました。

本院のチームSTEPPSの足掛かりとして大変貴重な講演になりました。今後も更なるチーム医療の充実を図っていきます。

## 災害医療研究センター

### 第4回中部ライフガードTEC2016 防災・減災・危機管理展にブース出展

平成28年6月2日（木）・3日（金）の2日間にわたり、ポートメッセ名古屋において、第4回中部ライフガードTEC2016が開催されました。

これは、主催が名古屋国際見本市委員会、共催として南海トラフ地震対策中部圏戦略会議、また、後援に内閣府・経済産業省・国土交通省・消防庁による中部地区最大規模の総合防災展です。南海トラフ地震対策中部圏戦略会議は、国土交通省中部地方整備局が中核となって、各官庁・組織・企業の壁を超えた防災連携体制を構築することを目的として4年前に組織されました。しかし、医療部門の参画が不十分なため、このたび、中部ブロックDMAT（災害派遣医療チーム）連絡協議会が加わることになり、本学災害医療研究センターが医療部門の立ち上げに大きく貢献しました。

今回は展示ブース【写真】において、本学の災害支援出動時の医療資機材やDMATユニホーム、初動体制の解説パネル展示に加え、同センター発刊の冊子「南海トラフ巨大地震に備えて」を配布しました。また、災害医



療研究センターの中川隆教授、小澤和弘助教による講演会「大規模災害が起こったら－医療について考えてみましょう－」が開催され、満席となる盛況ぶりでした。

本年4月に発生した熊本地震の被害を目の当たりにし、愛知県でも甚大な被害が予想される南海トラフ地震についても様々な報道がされています。今日の災害医療への関心の高さを痛感するとともに、本学災害医療研究センターからの積極的な情報発信の責務を強く感じる有意義な展示会となりました。



## 災害医療研究センター 防災リーダー養成講座へ出張講義

平成28年6月19日（日）午前10時から長久手市まちづくりセンターにおいて、長久手市南小学校区自治会連合会主催の防災リーダー養成講座が開催され、本学災害医療研究センターの中川隆教授と小澤和弘助教が講師として「大規模地震における医療と救護」というテーマで講演を行いました。【写真】

近年、東日本大震災や熊本地震などの大規模震災が多発しており、南海トラフ地震に向けた準備が進められておりますが、このたび、同小学校区自治会の要請を受けて、同講座の開催が実現しました。

当日は、各自治会の会長、防災委員など40名が参加し、中川教授からは、大規模災害に関する歴史や社会情勢の動向について分かりやすい説明がなされました。その後、数名のグループに分かれ、災害発生時の行動について意見を出し合い、小澤助教の解説に、参加者は熱心に聴き入っていました。

本学災害医療研究センターでは、今後も地域住民の方々への災害医療に関する教育を積極的に行って参ります。



## 職員研修「チーム力を高める職場づくり」実施

法人本部では、組織力向上を目指した人材育成を重要課題とし、職員研修を実施しています。

職場のリーダー層を対象とした「チーム力を高める職場づくり」は、平成26年度から継続して開催しており、今年度は、平成28年6月23日（木）・7月29日（金）の2回開催し、事務職員・医療職員・看護職員から38名の方に受講して頂きました。

研修では、講義とグループワークを通し、職場をマネジメントする基礎知識を学ぶとともに、メンバーの思いや感情、真意を受けあい、「知恵とチカラがあう場の風土を促進する」ファシリテーション型リーダーシップを学びました。受講者からは、「会議をよりよくするための手法、意見のあつめ方の具体的な方法がとても参考になりました。」、「スタッフの思いを聴き理解すること、自分自身の感情を知ることが、良い職場づくりにつながると感じた。」、「他部署のスタッフとの交流ができるので、とてもいい情報交換の場になった。」などの感想がありました。



活発に行われたグループワーク

本学の持続的な発展のためにも、チーム力を高め、多職種が協力し合う風土を作り出すリーダーシップの育成に、今後も継続して取り組んでいく予定です。

## 管理職勉強会開催

平成28年6月24日（金）午後3時から大学本館305講義室において、事務部門における管理職のリーダーシップ強化を目的とした第2回管理職勉強会が開催され、昨年9月の第1回目 continuing、社会保険労務士の佐治泰直氏を講師にお迎えし、「脱・残業の仕事力～働き方革新・新しい人生の始め方～」をテーマにご講演を頂きました。【写真】

勉強会の冒頭では、島田孝一法人本部長から「激しい競争を生き残っていくためにも、短時間で効率よく働いていく必要があります。今日はその極意を学びましょう。」とあいさつがあり、長時間労働を減らす意識改革の話に、出席者からは「今後の重要課題であり、タイムリーな話題で良かった。」、「仕事だけでなく生活にも反映された



内容であった。」、「職場に戻り実践できたら良いと思う。」などの感想がありました。

## 看護学部 坂本真理子教授 平成28年度愛知県看護協会会長表彰受賞

看護学部の坂本真理子教授【写真】が、平成28年6月23日（木）名古屋市公会堂で開催された愛知県看護協会総会において、愛知県看護協会会長表彰を受賞されました。

これは、愛知県看護協会会員として多年にわたり看護業務に精励されるとともに、協会活動に大きく貢献された功績が評価されたものです。

表彰を受けた坂本教授から「多くの看護職の皆さまとの出会いがあったからこそこの表彰だと思います。より良い看護実践に向けての叱咤激励と受けとめ、これからも努力していきたいと思っています。今後もよろしくご指導ください。」と感想がありました。



## 看護部 石塚美津子師長 平成28年度愛知県看護功労者表彰受賞

看護部の石塚美津子師長【写真】が愛知県看護功労者表彰を受賞されました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞で、平成28年5月9日（月）ウイंकあいちにおいて開催された愛知県看護大会の席上で、表彰式が行われました。

表彰を受けた石塚師長から「退院調整部門の看護師として、地域の他職種連携の推進に力を注いで参りました。その評価として、愛知県看護功労者表彰を頂きましたことは、医療連携センター及び看護部の皆さまのご指導、ご協力あつての賜物と心より感謝いたします。今後も、退院調整専従看護師として、退院支援、地域包括ケアシ



ステムに向けて皆さまのご期待にお応えできるよう努力していきたいと思っています。」と感想がありました。



## 献血ご協力ありがとうございました

平成28年6月16日（木）大学本館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成29年2月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

### 夏の団体献血

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| ・ 献血受付数     | ・ 50名                |
| ・ 献血できた方    | ・ 40名<br>(400ml・36名) |
| ・ 献血できなかった方 | ・ 10名                |

平成28年7月29日（金）名古屋市中区役所ホールにおいて、平成28年度愛知県献血運動推進大会が開催され、団体献血における本学の功労に対して感謝の意を表す、献血功労表彰日本赤十字社有功章「金色有功章」を受賞しました。



金色有功章

# 一般財団法人愛知医科大学愛恵会 平成28年度第1回主催公演事業

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、入院・通院患者さんを始め、地域の方々へのサービス事業の一環として、これまで定期的に主催公演事業を開催しています。

平成28年度は、中央棟オープン2周年記念事業として、平成28年5月7日（土）に第1回主催公演事業が開催されました。

中央棟2階で開催されたコンサートでは、最初に本学の学生ボランティアサークルHIAMUの合唱部による合唱から始まり、続いて、地元を中心に活躍中のコンサートグループ「花の詩」会員の大竹広治さん他3名による「管弦アンサンブル」、同じく会員の天野久美さん、石原まりあさん、大久保亮さん、西元佑さん、釣由美さんによる「声楽アンサンブル&オペラアリア」が開かれ、華麗な演奏と迫力ある歌声に、たくさんの参加者は知らないうちに引き込まれていました。

最後には、声楽アンサンブル&オペラアリアの出演者とHIAMU合唱部のコラボで、「世界に一つだけの花」、「ありがとう」に続いて観客の皆さんと一緒に「故郷」を歌い、盛況裏にコンサートが終了しました。

「体験教室」では、絵手紙教室、プリザーブドフラワー教室、アロマハンドマッサージが開催され、どの教室も多くの参加者で賑わい、いずれも好評でした。

また、特設コーナーでは、恒例となったJAあいち尾東による「産直（野菜）販売」も同時に実施され、人気を集めていました。



HIAMU合唱部



声楽アンサンブル&オペラアリア



プリザーブドフラワー教室

## 著書等ご寄贈のお願い

医学情報センター（図書館）では、本学教職員及び卒業生の方が執筆された図書、AV資料等を積極的に収集し、広く利用者の皆さまに提供しております。

著書等を発行された場合には、是非図書館にご寄贈くださるようお願いいたします。

※ご寄贈頂ける場合には、貸出用・保存用として2冊頂けると幸いです。

【お問い合わせ先】

医学情報センター（図書館）図書担当

電話：(0561) 61-1836 [ダイヤルイン]

E-mail：library@aichi-med-u.ac.jp

# 学 術 振 興

## 学 位 授 与

### ◆大学院医学研究科



鈴木 隆佳

学位授与番号 甲第471号

学位授与年月日 平成28年5月12日

論文題目：「The association among ferruginous body, uncoated fibers, asbestos and non-asbestos fibers in lung tissue in terms of length (肺内の含鉄小体及び非被覆繊維濃度と石綿・非石綿繊維の長さ別濃度との関係)」



木村 行宏

学位授与番号 乙第380号

学位授与年月日 平成28年5月12日

論文題目：「Circulating antibodies to  $\alpha$ -enolase and phospholipase A<sub>2</sub> receptor and composition of glomerular deposits in Japanese patients with primary or secondary membranous nephropathy (膜性腎症における抗 $\alpha$ -enolase抗体、抗phospholipase A<sub>2</sub> receptor抗体と抗原蛋白の糸球体内局在についての検討)」



星野 哲朗

学位授与番号 甲第472号

学位授与年月日 平成28年7月14日

論文題目：「Polysomnographic parameters during non-rapid eye movement sleep predict continuous positive airway pressure adherence (終夜ポリソムノグラフィー検査で測定されるノンレム睡眠中のパラメーターは持続気道陽圧療法のアドヒアランスを予測する)」

## 研究助成等採択者

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金・

平成28年度研究助成

●氏 名 佐藤元彦 (生理学講座・教授)

研究題目 分子メカニズムに基づく新生リンパ管制御法の検討

助成金額 1,000,000円

## 本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第45回日本IVR学会総会
- ・第59回日本腎臓学会学術総会
- ・第103回愛知産科婦人科学会学術講演会
- ・第7回MRSAフォーラム (MRSAフォーラム2016)
- ・第12回消化器病における性差医学・医療研究会

【開催日】

- 平成28年5月26日(木)～28日(土)
- 平成28年6月17日(金)～19日(日)
- 平成28年7月2日(土)
- 平成28年7月23日(土)
- 平成28年7月30日(土)

【会長等】

- 石口 恒男
- 今井 裕一
- 若槻 明彦
- 三嶋 廣繁
- 米田 政志

## 第45回日本IVR学会総会

放射線医学講座・教授 石口 恒男

平成28年5月26日(木)～28日(土) ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて、第45回IVR学会総会が医学部放射線医学講座の石口恒男教授を会長として開催されました。

IVR (アイヴィアール) とは、Interventional Radiology (画像下治療) の略称で、エックス線透視や血管造影、CTなどの画像をガイドとして行う低侵襲的な治療です。近年、救急医療、がん治療、ハイブリッド手術室での手技など、IVRの重要性が広く認識され、普及しつつあり

ます。

本学会には計1,885名が参加し、特別講演、シンポジウム、技術セミナーなどを含め多数の発表と活発な討論が行われました。また、メディカルスタッフセッションでは、看護師・診療放射線技師の発表も行われ、盛会に終了しました。

最後に、本学会の開催にご支援とご協力を頂いた本学関係者の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

## 第59回日本腎臓学会学術集会

内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）・教授 今井 裕一

平成28年6月17日（金）～19日（日）パシフィコ横浜において、第59回日本腎臓学会学術集会が医学部内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）の今井裕一教授を総会長として開催されました。

本学会は、腎臓学の基礎から臨床まで、また、小児から成人・高齢者までの腎臓病を扱う学会で会員数はようやく1万人を超えましたが、今回は6,071名の参加者で新記録を達成いたしました。

テーマとして、「次世代の腎臓学：教育、科学的根拠、専門性」を掲げました。2日目には、会長講演の後、ソ

プラノ歌手の下垣真希さんに「命の歌」を歌って頂きました。その後、前理事長の黒川清先生から特別講演を頂きました。1,000名収容の大ホールに立ち見ができる程の大盛況でありました。懇親会では、本学理事長の三宅養三先生にごあいさつを頂き、盛会裏に終了いたしました。

末筆になりましたが、本学会の開催に当たり、関係者の皆さまに多大なるご支援とご協力を賜りましたことに心からお礼を申し上げます。

## 第103回愛知産科婦人科学会学術講演会

産婦人科学講座・教授 若槻 明彦

平成28年7月2日（土）興和紡株式会社本社ビル11階ホールにおいて、第103回愛知産科婦人科学会学術講演会が医学部産婦人科学講座の若槻明彦教授を会長として開催されました。本学術集会は、愛知県内の各大学等が持ち回りで担当し、開催しております。

理事会、評議員会を行った後、総会では注目の機構専門医制度についてなどの報告を産婦人科学会員に対し行いました。

一般演題は全部で24題、一般演題の発表は5分、討論

2分間で、14時10分から16時58分までのタイトな時間配分でしたが、今回の座長の采配により、大きな遅延なく終了できました。参加人数は307人でした。

本学からは、二つの演題が発表され、また、本学出身の若手産婦人科医の優れた発表も見ることができました。子育て中の医師支援のために、今回も託児所を用意していました。

本学会の開催に当たり、多大なるご支援を賜りました本学関係者、愛橋会の皆さまに心より御礼申し上げます。

## 第7回MRSAフォーラム（MRSAフォーラム2016）

感染症科・教授 三嶋 廣繁

平成28年7月23日（土）岐阜市文化産業交流センターじゅうろくプラザにおいて、第7回MRSAフォーラム（MRSAフォーラム2016）が本院感染症科の三嶋廣繁教授を当番会長として開催されました。

学会のテーマは、「MRSA感染症を多角的に考える～MRSA感染症の問題点を抽出し解決策を考える～」と題して、医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師など約200名の参加者が熱い討論を戦わせました。

また、シンポジウム三つ、教育講演三つに加え、一般演題は発表及び討論時間を十分に取ったポスター発表として39演題がエントリーされ、明日からの臨床及び研究

に有用な討論がなされました。

本学会開催に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会から助成金を頂きました。心からお礼を申し上げます。

また、学会運営に当たっては、愛知医科大学関係者、愛知医科大学病院感染症科・感染制御部のスタッフ、関連企業の財政支援並びに労務提供を頂きました。本当にありがとうございました。

愛知医科大学病院感染症科では、2017年から3年連続で大きな学会の主催を控えておりますが、今後とも宜しくお願いいたします。

## 第12回消化器病における性差医学・医療研究会

内科学講座（肝胆膵内科）・教授 米田 政志

平成28年7月30日（土）サンプラザシーズンズにおいて、日本消化器病学会の関連研究会である第12回消化器病における性差医学・医療研究会が医学部内科学講座（肝胆膵内科）の米田政志教授を当番世話人として開催されました。

本研究会には、一般演題11題の発表と招待講演として、名古屋市立大学の田中靖人教授に「肝疾患におけるM2BPGiの臨床的意義」、長崎大学の中尾一彦教授に「C型肝炎。SVR後の発癌について」、奈良県立医科大学の吉治仁志教授に「新時代の腹水治療」、虎の門病院の鈴木文孝先生に「C型肝炎の最新治療の成績と今後の展

望」、北海道大学の坂本直哉教授に「C型肝炎最新治療：SVR後の諸問題と対策」を、更には山梨大学の榎本信幸教授に「C型肝炎最新治療：薬剤耐性の現状と次世代DAAへの期待」というテーマで、それぞれご講演を頂きました。

会場には、北海道から九州まで消化器病における男女差に興味をお持ちの方々が約50名集まり、臨床に直結する活発な討論がなされました。

末筆となりましたが、本研究会開催に当たり、ご協力を賜りました学内関係者の方々に心から御礼申し上げます。

## 平成28年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,700 (継続)	810	脳脊髄損傷後再生における神経回路再編の動態解析－細胞外環境制御とウイルス導入系－
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	1,800 (継続)	540	患者iPS細胞由来ニューロンにおける異常タンパク凝集を促すストレスシグナルの解析
〃	岩瀬敏部 医学部 生理学, 教授(特任)	4,000	1,200	自律神経系変容と宇宙デコンディショニングへの影響および対抗措置の研究
基盤研究(B) 一般 (補助金)	大石ふみ子 看護学部 在宅看護学, 教授	(繰越)	0	頭頸部がんへの放射線治療による晩期開口障害を改善する看護介入プログラムの開発
基盤研究(B) 一般 (補助金・基金)	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	4,800 (継続)	1,440	ヘリコバクター属感染と膵がん・胆道がんのリスク
〃	渡辺秀人 分子医科学研究所 教授	(延長)	0	病態における細胞外プロテオグリカンの役割：細胞挙動制御と組織構築機構
基盤研究(B) 一般 (補助金)	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	4,400 (継続)	1,320	不完全なリプログラミングとゲノム不安定性を指標としたヒトiPS細胞の品質評価
〃	山田陽一 医学部 歯科口腔外科, 准教授	3,700 (継続)	1,110	歯髄幹細胞特性を応用した効率的組織再生療法の臨床応用ロジスティクス
〃	中野隆 医学部 解剖学, 教授	3,000 (継続)	900	フィジカルアセスメントに繋がる総合的解剖学実習モデルの構築を目指して
〃	小林孝彰 医学部 外科学講座(腎移植外科), 教授	5,700	1,710	移植腎グラフトの長期生着をめざした慢性拒絶反応に対する予防・先制医療の導入
基盤研究(B) 海外学術調査 (補助金)	伊藤誠 医学部 感染・免疫学, 教授(特任)	4,100 (継続)	1,230	省力的空間分布把握システムによる糸状虫症根絶の確認と再燃の早期発見
基盤研究(C) 一般(基金)	田辺圭子 看護学部 母性看護学, 教授	500 (継続)	150	妊娠期の自律神経活動にみる胎内環境の継世代的関連
〃	大道美香 医学部 解剖学, 助教	1,200 (継続)	360	運動器慢性痛の発症予防プログラム開発のための基盤構築
〃	梅澤一夫 医学部 分子標的医薬探索寄附講座, 教授	1,300 (継続)	390	新規骨格を有するNF-kappa B阻害剤の探索と難治性がん治療への応用
〃	鈴木進 医学部 腫瘍免疫寄附講座, 准教授	900 (継続)	270	エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立
〃	稲熊真悟 医学部 病理学, 講師	800 (継続)	240	新規シグナル経路GLI1-CXCR4による肉腫悪性形質制御メカニズムの解析
〃	小笠原尚高 医学部 内科学(消化器内科), 准教授	1,100 (継続)	330	大腸癌における上皮細胞増殖因子および腫瘍壊死因子関連新規分子標的遺伝子の機能解析
〃	天野哲也 医学部 内科学(循環器内科), 教授	800 (継続)	240	生活習慣(病)の改善が冠動脈プラーク性状に与える影響

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	山口悦郎 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー・内科), 教授	800 (継続)	240	自己免疫性肺胞蛋白症の自己抗体エピトープ解析
〃	中山享之 医学部 輸血部, 准教授	1,300 (継続)	390	リンパ腫微小環境に存在する多能性幹細胞MUSEの機能解析
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,200 (継続)	360	次世代拡散MRI解析を用いた小児神経疾患の脳微細構造解析
〃	大須賀浩二 医学部 脳神経外科学, 教授(特任)	1,200 (継続)	360	慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	800 (継続)	240	脊髄損傷修復に向けた再生阻害機構制御-コンドロイチン硫酸を制御する新素材開発-
〃	松尾俊宏 医学部 整形外科, 講師	1,200 (継続)	360	癌検出ウイルスマーカーを用いた肉腫および癌腫骨転移における末梢循環癌細胞の解析
〃	住友誠 医学部 泌尿器科学, 教授	1,000 (継続)	300	去勢抵抗性前立腺癌のcholesterol代謝経路解明による個別化医療の確立
〃	岩崎研太郎 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	1,200 (継続)	360	移植腎グラフトにおける抗体抵抗性生存シグナル誘導による慢性拒絶反応の予防
〃	鈴木佳克 医学部 周産期母子医療センター, 准教授	1,000 (継続)	300	妊娠高血圧症候群の発症予知・予防ならびに降圧管理に関する総合的研究
〃	三嶋廣繁 医学部 感染症科, 教授	800 (継続)	240	ミクロビオータ解析に基づいた感染症新規治療法開発の試み
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	頭頸部がん治療における正確かつ迅速な抗がん薬感受性診断法の確立
〃	白鳥さつき 看護学部 基礎看護学I, 教授	800 (継続)	240	看護職者の職業被ばくに関する知識および防護行動実態調査と安全教育プログラムの開発
〃	下村明子 看護学部 小児看護学, 教授	1,000 (継続)	300	発達障がいの子どもの睡眠改善プログラムを基盤とした生活臨床に関する研究
〃	佐々木裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	700 (継続)	210	地域で活動する訪問看護ステーションが協働で取り組む災害対策の看護ケアモデルの開発
〃	内田育恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授(特任)	500 (継続)	150	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
〃	久留友紀子 医学部 外国語, 准教授	1,000 (継続)	300	社会的コンテキストの中にあるEFLライティング・タスクの開発
〃	西山毅 医学部 公衆衛生学, 准教授(特任)	1,300 (継続)	390	全ゲノム関連解析およびそのメタアナリシスによる量的自閉症形質座の確証
〃	佐藤純 客員教授	1,200 (継続)	360	気象病発症メカニズムにおける気圧感受機構の解明-動物実験と臨床実験の連携研究-
〃	神奈木玲児 客員教授	900 (継続)	270	低酸素誘導因子HIFによる糖鎖関連遺伝子の転写誘導とその病態的意義の総合的解明
〃	笠井謙次 医学部 病理学, 准教授	900 (継続)	270	新規転写抑制因子標的遺伝子群から見た非浸潤性乳癌進行の分子病理学的機構
〃	岩崎靖 医学部 加齢医学研究所, 准教授	1,100 (継続)	330	クロイツフェルト・ヤコブ病の嗅球および嗅粘膜におけるプリオン蛋白沈着の検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	鈴木孝太郎 医学部 衛生学, 教授	1,200 (継続)	360	胎児期から出生後早期の環境が、小児肥満、成人の生活習慣病に与える影響の疫学的検討
〃	梅村朋弘 医学部 衛生学, 講師	1,000 (継続)	300	バングラデシュ南部デルタ地帯における塩害に関する調査
〃	小川匡之 医学部 法医学, 講師	900 (継続)	270	自然毒投与ラット体内の代謝プロファイリング解析
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	1,100 (継続)	330	B細胞性リンパ腫の新規制御機構
〃	高見昭良 医学部 内科学講座(血液内科), 教授	1,100 (継続)	330	造血幹細胞移植関連遺伝子多型の機能解析とゲノム標的治療の探索
〃	垣田博樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,200 (継続)	360	新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法におけるグリアに注目した新規脳保護療法
〃	武藤潤 医学部 皮膚科, 講師	1,100 (継続)	330	ヒアルロン酸による皮膚バリア調節機構の解明とアトピー性皮膚炎の新規治療法の開発
〃	畑山直之 医学部 解剖学, 助教	1,000 (継続)	300	小腸移植における高圧ガス保存法の応用: 再灌流障害軽減と免疫抑制作用の可能性
〃	若尾典充 医学部 脊椎脊髄センター, 講師	1,300 (継続)	390	骨強度評価を用いた癌骨関連有害事象発生リスク予測法の確立—有限要素解析の応用—
〃	藤田義人 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	脳水チャンネルアクアポリンのRNA i 機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	橋本篤 医学部 麻酔科学, 助教	1,200 (継続)	360	消化管運動障害でのアストロサイトを介する腸管神経系制御機構の役割と麻酔薬作用
〃	谷川徹 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	1,300 (継続)	390	新規アディポサイトカイン「オメンチン」の加齢性難聴における役割
〃	柿崎裕彦 医学部 眼形成・眼窩・涙道外科, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	甲状腺眼症における筋線維芽細胞の起源の研究
〃	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	1,500 (継続)	450	活性型プロテインCによる網膜再灌流メカニズムの解明
〃	武山直志 医学部 救命救急科, 教授	1,400 (継続)	420	侵襲下における血管新生と血管透過性の動態解析: 幹細胞移植による再生治療の試み
〃	馮国剛 医学部 薬理学, 講師	1,100 (継続)	330	酸化ストレス誘導蛋白質であるWDR35/n a o f e n 遺伝子の転写制御因子の同定
〃	白井裕子 看護学部 在宅看護学, 講師	1,200 (継続)	360	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	800	240	剽窃を予防する教育実践効果の分析: コピペ依存からの脱却をはかるプロセス介入教育
〃	仙石昌也 医学部 物理学, 准教授	700	210	クラウドを利用した協働学習によるレポート作成過程の分析とその教育効果
〃	大道裕介 医学部 解剖学, 講師	1,800	540	慢性痛を防ぐ集学的治療の基盤開発—理学療法における精神薬物療法の併用法の検討—
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	1,300	390	医学部低中学年を対象とした英語医療面接指導のための評価ルーブリックの開発



研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	稲垣秀晃 客員研究員	1,400	420	超音波とフェロモンを評価に加えた実験動物におけるより精度の高い愛護と福祉の確立
〃	久保昭仁 医学部 内科学(呼吸器アレルギー内科)教授(兼任)	1,400	420	ゲノムワイド解析による進行肺がんの治癒実現へ向けた基盤研究
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,300	390	G蛋白活性調節因子による血管形成制御機構の解析
〃	増渕悟 医学部 生理学, 教授	1,500	450	時間治療のための腫瘍内低酸素と生物時計の相互作用の解明
〃	林寿来 医学部 生理学, 講師	1,400	420	新規VEGF受容体結合因子に基づく血管新生制御法の検討
〃	安井正佐也 医学部 解剖学, 助教	1,500	450	機能性身体症候群にみられる病的疼痛と疲労の発症メカニズムの解析
〃	羽渕脩躬 客員教授	1,500	450	炎症・疼痛制御における肥満細胞、マクロファージ高硫酸化プロテオグリカンの機能解明
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学, 講師	1,100	330	ストレス応答調節におけるネガティブ・フィードバック破綻の機序の解明
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆腸内科)教授(兼任)	1,200	360	B型肝炎における遺伝子型分布の変遷および分子生物学的検討
〃	中尾春壽 医学部 内科学(肝胆腸内科)教授(兼任)	1,100	330	内在性遺伝子ターゲティング法を用いた肝癌におけるp53アイソフォームの機能解析
〃	恒川新 医学部 内科学(糖尿病内科), 講師	1,400	420	糖尿病における歯髄幹細胞を利用した膵島移植の向上
〃	中村二郎 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	2,200	660	シュワン細胞の神経終末誘引・保護作用の糖尿病多発神経障害に対する有益性の検討
〃	西原真理 医学部 学際的痛みセンター, 教授(兼任)	1,700	510	感覚過敏に対する新しい治療法の開発
〃	安藤孝人 医学部 乳腺・内分泌外科, 助教(医員助教)	3,000	900	画像融合技術を用いた超音波装置による乳癌乳房温存手術支援システムの開発
〃	中野正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	3,000	900	磁気ナビゲーションによる乳腺MRI検出病変の超音波ガイド下生検支援システムの開発
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	1,200	360	ABO血液型不適合腎移植における免疫学的リスク・ベネフィット解析と抗体治療の開発
〃	風岡宜暁 医学部 歯科口腔外科, 教授	1,500	450	高解像度アレイCGH法によるエナメル上皮腫のゲノム診断及び分子標的薬の開発
〃	森護那 看護学部 成人看護学, 助教	700	210	成人期がん患者の療養と社会生活の両立を支援するソフトウェア開発と運用可能性の検討
〃	小島徳子 看護学部 母性看護学, 助教	1,500	450	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	坂本真理子 看護学部 地域看護学, 教授	800	240	多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発
〃	坂本真理子 看護学部 地域看護学, 教授	(延長)	0	在日外国人母子への情報提供を促進するコミュニティ・ブリッジ・ワーカーの試み

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) 一般 (基金)	シバスダランカルナン 医学部 生化学, 講師	(延長)	0	ゲノム編集を施したヒト気道上皮細胞株を基盤とするKRASシグナル経路の解析
〃	村上 秀 樹 医学部 病理学, 准教授	(延長)	0	癌遺伝子YAP/TAZのタンパク質相互作用ネットワーク解析と腫瘍形成における役割
〃	小出 直 樹 医学部 感染・免疫学, 教授	(延長)	0	敗血症及び腸炎モデルにおけるCREB制御分子の関与
〃	津田 雅 庸 医学部 救命救急科, 准教授	(延長)	0	原発性胆汁性肝硬変 (PBC) における肝繊維化の機序とサイトカインの検討
〃	西原 真 理 医学部 学際的痛みセンター, 教授 (特任)	(延長)	0	疼痛性障害における神経生理学的評価法の開発
挑戦的萌芽研究 (基金)	小林 孝 彰 医学部 外科学講座 (腎移植外科), 教授	1,200 (継続)	360	抗体機能の多様性解析から戦略へ: ABO不適合・HLA抗体陽性移植モデルプタの作成
〃	牛田 享 宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	800 (継続)	240	集束超音波技術を応用した変形性関節症の低侵襲治療法の開発
〃	木下 浩 之 医学部 麻酔科学, 教授 (特任)	900 (継続)	270	恐怖記憶形成における麻酔薬作用の分子科学的機序の解明
〃	山田 陽 一 医学部 歯科口腔外科, 准教授	1,600 (継続)	480	幹細胞のオートファジーメカニズム解明による組織再生プロローグ
〃	浅野 い ず み 看護学部 地域看護学, 助教	600	180	発達障害を疑われた外国人未就学児と親のための療育支援モデルの検討
〃	岡田 洋 平 医学部 内科学 (神経内科), 准教授 (特任)	(延長)	0	ノンコーディングRNAによるヒトES細胞の神経分化制御機構の解析
若手研究 (B) (基金)	矢倉 富 子 医学部 解剖学, 助教	800 (継続)	240	慢性疼痛に共感をもたらす回復機序の解明 - 認知行動療法の基礎的検討 -
〃	佐藤 麻 紀 医学部 生理学, 助教	1,400 (継続)	420	糖尿病患者および肥満者におけるアディポカインの季節差 - 光と運動による介入実験 -
〃	室谷 健 太 医学部 臨床研究支援センター, 講師	500 (継続)	150	精神領域における早期診断法開発のための新しい臨床性能試験デザイン
〃	太田 明 伸 医学部 生化学, 講師	1,700 (継続)	510	CRISPR/Cas9システムを利用した骨髄腫の悪性化に関わる分子機構の解明
〃	岩味 健 一 郎 医学部 脳神経外科, 講師	1,100 (継続)	330	新たな髄膜腫細胞株・動物モデルの樹立と髄膜腫に対する新規薬剤治療法の評価
〃	竹内 幹 伸 医学部 脳神経外科学, 講師	1,600 (継続)	480	頸神経根の微小循環動態 (Micro-Circulation) の解明
〃	高橋 靖 弘 医学部 眼形成・眼窩・涙道外科, 講師	1,000 (継続)	300	ドライアイと眼瞼圧の関連の解明
〃	三看 善 郁 代 看護学部 基礎看護学II, 講師	1,900 (継続)	570	経管栄養関連器材における衛生管理方法の調査～ガイドライン作成に向けて～
〃	伊藤 秀 明 医学部 病理学, 助教	1,200	360	ヘッジホッグ関連因子STILによる浸潤突起を介した膵臓癌浸潤機構の解明
〃	岩山 秀 之 医学部 小児科, 助教	1,100	330	MCT8異常症の新規診断法の開発と神経障害モデル動物を用いた遺伝子治療の有効性

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究(B) (基金)	竹下 覚 医学部 周産期母子医療センター、助教	1,100	330	トロンボポチエンに注目した新生児血小板減少症の機序解明とその新規治療法
〃	赤堀 貴彦 医学部 麻酔科、助教	1,300	390	アルブミンによるヒト血管ストレス制御機構の解明と麻酔薬作用
〃	梶川 圭史 医学部 泌尿器科、助教	1,200	360	カット長を長くした新たな生検針による、臨床上有用でない前立腺癌の識別能の向上
〃	白木 幸彦 医学部 眼科学、助教	1,500	450	網膜血行再建の機序解明と臨床応用
〃	武藤 太一朗 医学部 小児科、助教	1,300	390	乳児アレルギーの発症とアレルギーマーチに関わる胎内環境と発症予測マーカーの研究
〃	大道 裕介 医学部 解剖学、講師	(延長)	0	運動器不活動後の広範囲慢性痛に対する新たな理学療法戦略構築のための基礎研究
研究活動スタート支援 (補助金)	姫野 龍仁 医学部 内科学(糖尿病内科)、助教	1,100 (継続)	330	糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性KATPチャネルの役割の解明

- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・平成28年6月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載

## 平成28年度厚生労働行政推進調査事業費補助金交付決定

平成28年度厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
慢性の痛み政策研究事業	牛田 享宏 医学部 学際的痛みセンター、教授	39,000	11,000	慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究

- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「国庫補助の交付基準額等について」及び「交付決定通知書」を基に作成

# 規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

## 大学学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、医学部の学納金の額が改定（教育充実費及び施設維持費の減額）されました。

施行日は平成28年7月11日

## 教員評価規程の一部改正

愛知医科大学教員評価規程の一部が改正され、教員評価の評価期間、評価対象者等が整備されました。

施行日は平成28年5月16日

## 「公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる研究用物品の発注及び納品検収業務について」等の一部改正

平成28年5月1日付けで「公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる研究用物品の発注及び納品検収業務について」（学長裁定）及び「公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる誓約書の取扱いについて」（学長裁定）の一部が改正され、公的研究費等を財源とした消耗品等の発注及び納品検収方法が整備されました。

## 病院規程の一部改正等

愛知医科大学病院規程の一部が改正され、新たな中央診療部組織として「総合腎臓病センター」、「人工関節センター」、「スポーツ医科学センター」、「てんかんセンター」が設置されました。

施行日は平成28年7月1日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成28年7月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学病院総合腎臓病センター規程
- ・愛知医科大学病院人工関節センター規程
- ・愛知医科大学病院人工関節センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院スポーツ医科学センター規程
- ・愛知医科大学病院スポーツ医科学センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院てんかんセンター規程
- ・愛知医科大学病院てんかんセンター運営委員会規程

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院腎センター運営委員会規程

## 診療情報の開示に関する規程の制定等

本院における診療情報の開示に関する手続きを整備するため、愛知医科大学病院診療情報の開示に関する規程が制定され、診療記録の開示に関する原則、開示範囲、開示対象者、開示手続き等が定められました。

施行日は平成28年6月1日

また、この制定に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成28年6月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院診療情報提供委員会規程

### 【廃止】

- ・愛知医科大学附属病院診療情報提供に関する規程
- ・愛知医科大学附属病院診療情報提供実施要領

## 医療情報システム内部監査要綱の制定

本院における医療情報システムの監査体制を整備するため、愛知医科大学病院医療情報システム内部監査要綱が制定され、医療情報システムに係る監査対象、監査体制、監査方法等が定められました。

施行日は平成28年6月1日

## 患者の待ち時間短縮対策プロジェクトチーム設置要綱の制定

本院における外来患者の待ち時間を短縮するための対策を検討するため、患者の待ち時間短縮対策プロジェクトチーム設置要綱が制定され、プロジェクトチームの組織、審議事項等が定められました。

施行日は平成28年5月2日